

最近人に本を借りて読むことが増えました。自分ではなかなか開拓しない作家の本でも人から借りることで新しく知ることが出来るなあと思いました。そしてこの本がそうです。その日食べることになったものは抵抗せずに受け入れるけど、努力して美味しくなるのならそれくらいはする。旺盛なのは食欲くらい。という作者が書いた食べ物の本です。

彼女が美味しい物を楽しく食べるために専門家の指導の元、絶食ダイエットをするという話がありました。その復食期でプロッコリーやトマトをかじりながらハンバーガーが異常に食べたくなり毎日インターネットで各ハンバーガーショップのサイトを見て朝昼晩の食事プランを立てたり、遠くにある店に行く方法を真剣に考えたりした結果「食べなくても満足する」ということに成功したとありました。その執念がすごいと思いました。その後同じようにデリバリーのピザにあこがれたりもしたようですが、広告を毎晩読みながら寝ているうちに満足し、次は飽きないように1日3ページと我慢しながら料理の本を読んでいたそうです。自分も似たように食べ物に対する執着は異常に強いと思うけれど、人それぞれいろんな執着があるのだなあと思いました。この本で私が「食べたい！」と思ったのは生牡蠣です。普段はほとんど食べないのに何故か無性に食べたくなりました。

文藝春秋

F N .

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞